

#### 第4回鎌倉のごみ減量をすすめる会の概要

日 時 平成24年5月10日(木) 午後18時30分～20時30分  
場 所 鎌倉市役所第二委員会室  
出 席 者 高田代表、織戸副代表 他会員8名  
鎌倉市 松尾市長  
石井環境部長  
小池環境部次長兼ごみ減量・資源化推進担当担当課長  
谷川資源循環課担当課長

配布資料

〔	鎌倉市事務局 松井ごみ減量・資源化推進担当担当主査	〕
	大高資源循環課担当	

- ・資料 平成23年度ごみ処理基本計画アクションプログラム(実績)
- ・資料 平成24年度ごみ処理基本計画アクションプログラム

#### 内 容

開会后、高田代表から本日の全体会開催の主旨についての説明があった後、松尾市長のあいさつがあった。

松尾市長＝日頃から本市のごみ問題について地域等でご活動いただきありがとうございます。鎌倉のごみ減量をすすめる会につきましては何度か出席をさせていただいており、繰り返しになりますが、改めて話をさせていただきます。

まず、山崎バイオマスエネルギー回収施設を作らないでごみ処理を行うものとさせていただきました。これについてはいろいろな意見があることは重々承知しています。そして、燃やすごみ4万トンがあり、焼却施設の老朽化と地域の住民の方々との約束があります。広域化での処理の検討を行ってきましたが、相手のあることで進んでいません。そのような中で、4万トンから3万トンにごみ焼却量を減らすことが、喫緊の課題となっているものです。

さて、大量生産、大量消費、大量廃棄は、日本の抱える大きな課題であると考えています。持続可能な社会のためには、仕組みから見直さなければならないと思っています。そもそも、私たち日本人はごみを出さない生活を続けてきました。ごみ問題は、市民一人一人の意識により、市民力により解決していくべきものと考えており、そのような考えのもと、市民、事業者との連携、協働を述べてきました。具体的には、今までの取組みを引き続きお願いするとともに、まだ生ごみ処理機をご活用されていない市民の方々には生ごみ処理機をご活用いただき、行政としては制度をつくっていきます。事業系ごみ処理手数料の改定や、事業系ごみの分別徹底など、まだまだやるべきことがあります。また、今年度は戸別収集を一部地域で実施しますが、これは自分の出すごみについて自らが責任を持つというものです。有料化と併せ、ごみを減らそうという意識を市民の方々が持っていただくようになると考えています。

鎌倉のごみ減量をすすめる会の皆さまには、ごみを減らそうという機運を高めていただければと思っています。

引き続き、小池環境部次長兼ごみ減量・資源化推進担当担当課長より、資料に基づき平成 23 年度ごみ処理基本計画アクションプログラム(実績)及び平成 24 年度アクションプログラムの説明を行った後、意見交換を行った。

【主な内容は次のとおり】

会 員＝平成 23 年度ごみ処理基本計画アクションプログラム(実績)について、7 ページの平成 23 年度焼却削減量 245 トンは、正しい数値と考えているのか。経済状況の影響もあると思う。来年度以降もこのような数値の取扱いで行うのか。

鎌倉市＝経済状況の影響もあると考えている。

会 員＝例えば、結果として事業系ごみが前年度より増えたとして、このような表記をするのか。

鎌倉市＝経済状況と分別徹底の効果を数値で分けるのは困難である。来年度の表記方法は未定だが、現状ではこの数値を実績として取扱う。

会 員＝9 ページについて、ピット前調査を行ったのちの訪問指導は何件くらい実施したのか。

鎌倉市＝10 件程度である

会 員＝7,000 件の事業所のうちの 10 件か。

鎌倉市＝搬入車両 1 台分の調査に対しての調査であることから、その程度となる。

会 員＝今泉クリーンセンターの焼却停止まであとわずかの期間である。かなりの無理のある計画であることと思う。約 8,000 トン近くが事業系である。現実的には 12,000 台もの生ごみ処理機の普及は難しい。自治・町内会の説明会とは実施した分の実績と思うが、廃棄物減量化等推進員に強く働きかけて、関心の高い人を集めて展示説明会をやった方が良い。

中小規模事業所の生ごみ資源化は約 4,000 トンを目標としているが、本当にできるのか。我々鎌倉のごみ減量をすすめる会としてどのような働きかけができるのか。事業者とは、協力するからには見返りを求めるものである。

会 員＝13 ページに中小規模事業所の生ごみ資源化処理業者について記載がある。複数社にコンタクトをとって 2 社となったのか。バイオエナジーは処理費 35 円と聞いている。高額である。

鎌倉市＝記載のとおり、バイオエナジーとアクト・エアを念頭に検討している。他社も検討したが、現時点ではこの 2 社を想定している。

会 員＝食品リサイクル法施行によりいわゆる‘コンポスト屋’がごみ処理業者となった。市はこの施策はできると考えているのか。この 2 社でできるのなら、それで良い。

鎌倉市＝この事業は資源化処理業者を見つけられれば良いというものではなく、まずは排出事業者が分けて排出することが必要である。次に収集があり、今まで 1 回の収集で済んでいたものが、分別されたことにより 2 回の収集となる。様々な課題のある事業である。

会 員＝排出事業者と収集事業者にそれぞれ課題があろうことはわかる。補助金を出すと、市は考えるべきである。それでも、実現は難しいと考える。

鎌倉市＝中小規模事業所の生ごみ資源化は、大きな施策であると認識している。今、まさに検討を重ねているところである。補助金については、ただ単にお金を払えばよいというものではなく、公平性等も確保していかなければならず、簡単なものではない。

会 員＝家庭系ごみは分別されていなければ収集してもらえない。事業系ごみは、事業者がお金を払っているのだから、分別されていなくても良いのだろう、というふうに考えられている。事業所訪問をしたとき、事業系一般廃棄物の分別は難しいと言っていた。

鎌倉市＝分別の徹底されていないものは受入れをせず戻させるというようなシステムを、来年の1月施行に向けて、9月に条例改正を検討している。これは生ごみ分別とは別で、資源物の分別徹底であるが、生ごみについては、処理料金に差をつけるなどのインセンティブの与え方などを、今、検討しているところである。

会 員＝事業系ごみは、もつと早くから取り組むべき課題であったと思う。ある事業所を訪問したら、燃やすごみに紙が入っていた。分別排出を指摘したところ、その事業者は分別すべきことを知らなかった。このような状況をどのように改善するのが課題である。

会 員＝以前、市職員に、事業系ごみはこれからどのようにすれば良いか、どのように分別している排出事業所を評価するのか、と聞いたことがある。ステッカーを貼るなどを考えている、と回答していたが、ステッカーだけではわかりにくいと思う。

会 員＝事業者は、分別排出することのメリットが必要である。

会 員＝アクションプログラムの中に「鎌倉のごみ減量をすすめる会」が位置付けられている。私たちは一体、何をすればよいのか。情報共有をしたい。

鎌倉市＝市民の皆さまが「こうしたらよい」ということを、自ら考え、自ら行動していただく組織を考えている。よって、市から、何かをして欲しい、というものはない。

会 員＝もう後がない。切迫感を感じている。

松尾市長＝市民の方々に動いてもらうことを期待している。ただ、目標が共有されていないのかと感じている。事業系ごみに大きく手を入れていきたいと考えている。事業者に対する働きかけが課題である。お店を表彰するなどのアイデアが先ほどあったが、それも一例だと思う。また、場合に応じて排出事業所を訪問していただくこともあるかと思う。このような行動のイメージが、具体的になっていないと感じた。

会 員＝事業系ごみに対する施策の成果があがっていない。排出事業者に対する働きかけのプランは示していただけるのか。

会 員＝この前、事業所を対象とした3R啓発の集まりがあったが、その効果は検証しているのか。「この前の会はどうでしたか」とか「その後、どのようにしましたか」とかを聞いているのか。そのように排出事業者を分別するように追い込んでいくべきである。

会 員＝多量排出事業所に対して市はヒアリングを実施している。私たち鎌倉のごみ減量をすすめる会の会員がその場で働きかけをするものよいのではないか。

鎌倉市＝市と一緒に行くのもよいし、会員の方々が行かれるのもよいと思う。

会 員＝私たち会員は、肩書きがないので、相手にされない。

鎌倉市＝この会自体がまだ発足して間もない。会員の方々が行くような場合には、市として「このような会ですよ」と言うことはできる。

会 員＝事業者もこの会に入っていていただくことが望ましい。事業系ごみの分別徹底だが、商店会という組織がある。それを活用し、例えば、小さなお店同士で共通してミックスペーパーの日を作って排出するなど、このようなアイデアを提供したい。

鎌倉市＝市の方から、鎌倉のごみ減量をすすめる会を紹介する通知を出すことは可能である。今の例については、そのような統一した収集日を設けるかどうかは商店会やお店が決めることである。

会 員＝事業系ごみは有償だから分別しなくてもよいのか。

鎌倉市＝事業系ごみでも産業廃棄物はクリーンセンターでは受入れない。紙類も資源物としているので、受けて入れていない。今後、分別を検査する機械を導入し、徹底した指導を行っていく予定である。

会 員＝事業系ごみは排出袋を一袋いくらで取り扱われている。それならば、一緒に全部を入れてしまえ、となる。分別すれば2袋となり、費用が高くなる。零細事業者は分別しようとしなくなる。

会 員＝それを収集してクリーンセンターに搬入した収集業者に問題があるということか。

会 員＝収集業者が収集したごみを分別することはできない。

会 員＝事業者にとってのコストの問題である。

会 員＝例えば、先に述べたミックスペーパーの日を定めればよい。

会 員＝排出業者や収集業者への指導は、条例などの問題ではないのか。

松尾市長＝今、検討している条例改正により、分別されていないものは今後、受入れをさせないようにするという措置をとれるようにするものである。

会 員＝つまり条例を作らなかったことが問題の本質だったのではないか。今までやれなかったことが、今回はやるようになったということか。

鎌倉市＝ピット前調査というものは、今までもやってきている。

会 員＝資源物が混じっていたものは、全部、持ち帰らせればよい。

鎌倉市＝公権力により持ち帰らせることができるよう、条例改正を目指している。

会 員＝事業者はごみ排出袋を購入してごみを出すという話があったが、その袋に事業者の名前を書くようにすればよい。

鎌倉市＝市内に33の収集業者、つまり一般廃棄物収集運搬業許可業者がいる。それぞれが、それぞれの排出事業所と様々な契約方法により契約している。ごみ排出袋による出し方は、そのうちの一つである。

会 員＝市が収集しているわけではないということか。

鎌倉市＝そのとおりである。

会 員＝事業者の名前を書くようにするのはよいこと。名前を書くように呼びかけるといった案はどうか。または鎌倉のごみ減量をすすめる会として提案するとか。

会 員＝事業者は、紙ごみはどうすればよいのか。

鎌倉市＝古紙再生事業者に持っていくこととなるので、そこへ収集業者に持っていかせることとなる。

会 員＝そのようなことを事業者へ周知していくべきである。

会 員＝事業者も市民と同様、分別して排出するということは同じ。焼却している施設も同じである。分別しなくてはならない、ということは譲れないと考える。

業務用生ごみ処理機の残渣、たい肥について伺いたい。それらはどうしているのか。焼却しているのか。一次処理したものをさらに処理するというのは、相当なコスト負担である。

鎌倉市＝昨年度、業務用生ごみ処理機をモデルとして湘南記念病院に設置した。日量50kgの処理ができ、ごみ処理費用の削減ができたと聞いている。このような事例を他の事業者に紹介し、コスト的にも生ごみ処理機が役立つことを知らせ、普及をすすめることを目的としている。生ごみ処理機でできたたい肥は、横須賀の業者がたい肥に完成させ活用している。

会 員＝そのたい肥化にも料金はかかるのか。

松尾市長＝横須賀の業者が引き取るまでのシステムを含めてリース契約している。そのモデルではリース料を市が負担している。

会 員＝生ごみの処理単価コストは計算しているのか。

鎌倉市＝導入して間もないので、まだしていない。月70,000円弱のリース料である。その割返しである。

会 員＝市が全額負担しているということは、相当な負担である。

会 員＝この事業は今後の研究が必要と思う。そのディスカッションはしてもらえるのか。

鎌倉市＝構わない。

会 員＝ゆりかごからゆりかごへ、という理念について、松尾市長からもう一度伺いたい。

松尾市長＝まず、ゆりかごからゆりかごへ、という理念を全ての施策で貫き通すのか。これは、皆さまや多くの方々の意見を取り入れながら考えていく。持続可能な社会づくり、ごみを出さない、という世界的な運動である。例えば、オランダ航空のナプキンは食べることができる。電池のパッケージで土に戻る材質で作られているものがある。このような取り組みを多くの人に知ってもらい、それが広がればよいと思う。現実はまだまだ困難であるが、そのような方向に向かってすすんでいきたいと考えている。

会 員＝ゆりかごからゆりかごへ、の概念について市職員と議論しているのか。

松尾市長＝概念について直接に深く議論はしていない。

会 員＝意志を共有することが重要であると考え。本日はこれで終了する。

以上